

アメニティ指向型
キャンパス内 創・省エネルギー・アイデアコンテスト申請書

区分 (いずれかを○で囲むこと。)	<input checked="" type="checkbox"/> アイデアの部 <input type="checkbox"/> 研究シーズの部
-------------------	---

申請者	所属・職又は学年 (ふりがな) 氏 名	ながれ領域・助教授 (やまむら はつお) 山村 初雄	
	課題名 グリーンクールドウン・「知性の杜」計画		
(注1) 組織	氏 名	所属・職	役割分担
	代表者		
	構成員		
計画			
<p>熱田神宮などに代表される「杜」は、都市空間の中で一服の清涼感を与えるオアシスである。土と植物によるクールダウン効果に加えて、「自然」が与える心理的な効果もある。これにならい、可能なかぎりキャンパス内の地面を被う蓄熱性、熱反射性のアスファルト等人工物を一掃し、その部分を土と植物で被う。これにより学生等が「憩う場」も造り出す。建造物については、屋上等を含めて可能なかぎりツタ等の植物で被って太陽熱を遮断し、クールダウンを実現する。こうして空中庭園化することで見た目の清涼感も伴う宗教系私立大学キャンパスを思わせる「学府」らしい知的な雰囲気も醸し出す。こうしたエリアと最先端工学をイメージさせるエリアとをキャンパスに兼ね備えさせることで、人と自然とが共生した「知性の杜」を創出する。近隣住民へも「すずしさ」と「すずしげな(知的)印象」を与えることも期待できる。この計画は国、名古屋市の進める環境保全への取り組みにも合致している。</p>			
方法			
<p>1、自動車の入構大幅制限と通勤通学の公共交通機関利用への転換。キャンパス内駐車場撤去と緑地化。 2、自転車の構内利用禁止と門近傍への集中駐輪場設置。駐輪場撤去とその緑地化。 3、最先端工学をイメージさせるものを除く建造物壁面、ベランダおよび屋上等の緑化</p> <p>本学の立地条件を生かし、通勤通学における自動車利用を最大限、公共交通機関に替える。従来の駐車駐輪スペースは、アスファルト等を撤去し、全て緑地化する。消防用空地の配置や風の通り道も考慮しながら、合理的な植樹、緑地化を行う。植物は、購入コストが高価でなく、かつ最小限のケアでよいものを採用する。5年程度の計画で逐次的に実行することで、ゆるやかな駐車スペースの削減とその状況への順応を実現し、かつ建造物改修等に対応して修正可能な柔軟な整備が可能となる。計画完了後は、定期的な草刈等のメンテナンスは必要であるが、その維持コストは電気代に比べて著しく安価となる。当該緑地は、「憩いの場」としても機能し、精神的クールダウン効果も期待できる。</p>			

注1) 組織欄は、「研究シーズの部」のみ記載する。

注2) 大学研究活性化経費への推薦を行う場合は、当該申請書の作成を改めてお願いします。